大阪 歯科
保険医新聞

1/25
2020年第1352号
（毎月5、15、25日発行）

大阪府歯科保険医協会
発行人　和田　武
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

20年診療報酬改定

3/22 新点数中央説明会

オリックス劇場　午後１時～

4月の診療報酬改定へ向け、協会は新点数中央説明会を3月22日（日）午後1時から、オリックス劇場（大阪市西区新町1-14-15）で開きます。

今改定では、院内感染防止対策の充実を図るため、常勤医師に加え従業員への研修の必修化や基本診療料の評価の見直し、口腔疾患の重症化予防でも新たな評価――などが、検討されています。

協会は3月28日以降、府内10カ所で新点数地区説明会を開きます。事前にお申し込みの上、ご参加ください。

協会HPで簡単申し込み

大阪府歯科保険医協会　検索

【申し込み方法】

- 新点数中央説明会の会員の申し込みは不要です。事前にお届けする「入場・資料引き換えハガキ」を必ずご持参ください
- 会員院所の衛生士・助手・受付等は申し込みが必要です
- 開業医会員院所の未入会歯科医は参加費１万円

日　時：**3月22日(日)　午後１時～４時**
会　場：**オリックス劇場**（旧厚生年金会館）
講　師：社保研究部・政策部講師団
参加費：会員・会員院所の衛生士・助手無料、開業医会員の未入会勤務医１万円
行き方：地下鉄四つ橋線「四ツ橋駅」「本町駅」／長堀鶴見緑地線「西大橋駅」／中央線「本町駅」などから徒歩５～７分

小澤理事長が朝日新聞社に抗議文

医療機関と国民分断させる

院内感染対策問題で19年に記事

歯科医療機関が院内感染防止対を怠っているかのような誤解を与える記事（2019年10月9日付）を朝日新聞が掲載したことを受け、協会の小澤力理事長は12月27日、朝日新聞社に対し、実態に基づいた報道を求めて抗議した。

記事は「歯科治療、進まぬ院内感染対策」との見出しで、使用済みハンドピースを患者ごとに交換、滅菌している割合が半数にとどまっていることなどを解説。きちんとした感染対策をしている歯科医の見分け方として、「NPO法人歯科医療情報推進機構」が認定している同法人の会員医療機関が目安になるなどと紹介している。

抗議文は、記事が16年度の1回分の厚労省調査に基づいており、同NPO法人の認定医院数も全国でもわずかしかないことを指摘。歯科医療機関の感染対策の現状について読者に誤解を生じさせかねないとし、「歯科医療機関の信頼を損ない、歯科医療従事者と国民を分断させかねず、大きな悪影響を与える」と述べている。

懇談する保団連役員ら（右側）と朝日記者＝1月15日、大阪市

朝日記者らと懇談

保団連　院内感染記事めぐり

保団連は1月15日、院内感染に関する記事を書いた小川裕介記者と科学医療部次長の小堀龍之次長と朝日新聞大阪本社で懇談した。取材姿勢とデスクの編集姿勢を質しながら、歯科界が努力している実情を伝えて、読者に誤解を与えない報道をするよう申し入れた。

懇談は昨年末に各地の保険医協会からの抗議文を受けて朝日新聞社が応じたもの。保団連からは新井良一歯科社保審査対策部長、杉山正隆理事、小澤力理事（大阪歯科協会理事長）が参加した。

懇談では、①院内感染防止対策の講習や届出は実働のほぼ100％が実施しており、記事の「進まない院内感染対策」と正反対になっている②今回の記事は数年前の読売新聞の記事などでほぼ書ける内容であり取材が不十分であり、「逆の意見」を一考するべきだった③「院内感染」が何を意味するのかを正確に示さずに不安をあおりながら、全国で60件しかホームページ上の掲載がないNPO法人の認定医院だけが安全であるかのような誤解を与えている――ことを指摘し、出稿した記者のモラルと、記事を通した担当デスクの見識を質した。

朝日新聞側は「厳しいご意見があることは受け止めたい」などとした。

2020年度診療報酬改定

歯科医療の抜本的改善を

江原政策部長が談話

加藤勝信厚労相と麻生太郎財務相による大臣折衝で2020年度診療報酬改定の改定率が決まったことを受け、協会の江原豊政策部長は「歯科医療の打開は不可能」だとし、抜本的改善を求める談話を10日、発表した。

改定率は歯科で0・59％、診療報酬本体は0・55％と微増したが、薬価等を含む全体では0・46％のマイナスだった。江原氏は、政府が診療報酬引き下げなどを通じて社会保障費の伸びを抑制し、後期高齢者の窓口負担増などを計画していることを批判。

金パラの高騰や院内感染防止対策への対応など、経営環境の悪化を改善するには「基礎的技術料や基本診療料の抜本改善は待ったなし」と指摘。誰もが経済的な不安なく歯科医療が受けられるよう「保険でよい歯科医療」の実現を目指すことを表明している。

～新点数説明会プレ企画～

20年報酬改定 最新動向学習会

協会は2020年診療報酬改定の最新の動向を探る学習会を２月11日に開催する。

日時：**２月11日(火･祝)　午前10時～正午**
会場：M&Dホール
講師：社保講師団・政策部講師
参加費：会員・会員院所スタッフ無料
問い合わせは事務局（06-6568-7731）

PR増刷号

近畿厚生局・各種名簿などで情報を取得し、未入会の先生に本紙をお送りしています。郵送停止をご希望の方は当協会事務局（TEL06-6568-7731）まで。

今号は大阪府下の全歯科開業医の先生にお送りしています。この機会に協会へのご入会をご検討ください。協会の概要につきましては、組織部までお気軽にお問い合わせください。

歯界

豪州で起こった森林火災で、すでに日本の面積の半分近くに相当する森林や農地が焼失したという。記録的な乾燥をもたらした要因としてインド洋の東西で海水温が大きく異なる「ダイポールモード現象」が指摘されている。地球の温暖化が「ダイポールモード現象」を増やすとの指摘もある。

温暖化の影響は日本でも他人ごとではない。18年7月の「西日本豪雨」について、気象庁は温暖化の影響があったと報告書に記した。

16歳の環境活動家グレタ・トゥンベリさんは科学的事実に基づいて、温暖化の危機を告発し、各国リーダーの無策を糾弾する。人と自然との持続可能な関係からカール・マルクスの社会主義を研究する若手研究者の斎藤幸平・大阪市立大准教授の『未来への大分岐』が注目を集めている。

若者は既存のシステムや制度の限界に敏感に反応し、「あとは野となれ山となれ」の無責任な化石的リーダーを許さない。（I）

応召義務で新解釈通知

「医師の応召義務」について、厚労省は従来の解釈を整理し、現代における解釈通知を出した。（全文は協会HPに掲載）